

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792900029		
法人名	医療法人 久慈会		
事業所名	グループホーム 上志宝台(北ユニット)		
所在地	福島県東白川郡棚倉町関口上志宝73		
自己評価作成日	平成27年1月26日	評価結果市町村受理日	平成27年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

棚倉町の高台に位置し静かな環境の下、庭には四季の草花が咲き、毎日畑を見て収穫の時を待ち、また、収穫した野菜が調理され食事提供され味覚を楽しませてくれる。また、隣には介護老人保健施設も併設され医療面でも協力体制ができている。介護の理念である、ゆつくり3(ゆつくり話、ゆつくり聞き、ゆつくり歩く)を掲げ職員の共通理解のもと日々介護に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者・家族の意見や要望など十分に把握し、介護計画が策定されている。また、日々モニタリングを実施し評価を行って、現状にあった介護計画が策定されている。さらに、介護計画に沿った支援とその経過記録も適切にされている。
2. 職員は、利用者の生活ペースに合わせた支援に心掛け、利用者の目線に合わせ、明るく、親切な対応をしており、利用者・家族の評価も高い。
3. 経営母体が医療法人であり、併設されている介護老人保健施設と医療面の連携が取られており、利用者・家族は安心した生活が送られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果 [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げるとともに日々の仕事の中で職員が共通理解できるよう呼びかけているが地域資源の活用が不十分なため、また業務に流されまだ十分には実践につながってはいない。	事業所理念を玄関などに掲示し、管理者は職員に対し、定期的にその内容について周知している。また、職員は掲示された理念を、その都度確認しながら、利用者が可能な限り自立して生活を営むことが出来るよう、日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の付き合いができるよう推進会議などを通して働きかけているができていない。	地域自治会には加入しているものの、地域の特性から非常に関わりが少なく、傾聴・語り部のボランティアなどの受け入れや、買い物や周囲のドライブなどを通して、交流出来るように努めている。	老人会や各種の催し物がないなど、地域的な問題は有るが、運営推進会議や行政区の協力を得ながら、あらゆる機会を通して、地域と関わり合えるよう取り組んで欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出向いたり、来てもらったりする機会がない為できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では町担当課長、地域包括センター職員、区長、家族代表者、民生委員に委員となっただき、定期的に会議を開催し、入居者の状況やホームでの行事など紹介し、各委員に意見を求めている。	運営推進会議は定期的開催され、会議の中では利用者状況や行事内容、ヒアリングや防災訓練などの報告を行い、委員から意見をもらい運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員として、担当課長に毎回、会議に参加して頂いている、その時、意見をいただきたき協力していただけるよう努めている。	管理者は、事業所の利用状況や事故報告などについて、市担当者とは情報交換しながら協力関係を築いている。また、運営推進会議の中で町の担当者との意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは何か日頃よりミーティングなどを通して理解できるようにしたり、研修会に出席したりして取り組んでいる。	管理者はミーティングなどを通して、身体拘束について話し合い、拘束のない支援に取り組んでいる。帰宅願望が強く事業所から出てしまう利用者には、抑制にならないよう、見守りながら出来るだけ思いに沿った支援に努めている。玄関の施錠は拘束として捉え、日中の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のミーティングやカンファレンスを通して虐待について知識と理解を深める努力をしている。また、職員間で話し合い虐待が見過ごされることがないようにしている。研修会にも出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	文書を通して学ぶ機会はあるが実際には利用している入居者もいないので活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時説明を行い、疑問点や不安などある場合よく聞き、理解して頂けるよう努力している。また、改定があり文書にて通知承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	納涼祭やクリスマス会など家族が来所された際声掛けし意見を聞く機会を設けているが運営には十分反映されていない。	家族からは運営推進会議や、行事の開催時や面会時間を利用して、意見や希望を把握するよう努めている。また、利用者からは担当職員が中心となって、日々の関わりの中で意見などを伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議などで意見や提案を聞く機会を設けている。法人全体にかかわる問題は、管理者が参加する全体会議で意見を述べ反映させている。	管理者は、職員会議や毎日のミーティングなどで意見や提案を聞き、運営に反映させている。また、日常業務の中で職員に声掛けを行い、仕事などでの悩みや要望を聞き、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日や夜勤等については、希望を聞きある程度各職員の都合に配慮しながら家庭と仕事が両立できるような勤務体制を取っている。また、向上心が持てるよう資格の習得に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の仕事の中で知識の向上と技術の習得に努めている。グループホーム連絡協議会が開催する講習会を中心に、職員が外部講習会に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、県南グループホーム連絡協議会への会議、研修会等へ出席することにより同業者との交流や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いままでの生活環境を踏まえながら、本人家族からどのようにしてほしいのか伺い、家族との協力を得つつ不安なくホームで生活を送れるよう職員間で情報を共有し統一した対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人家族から不安や希望を伺い情報を収集し、それに沿った支援ができるようミーティング等を通して職員間で話し合い相互の信頼関係に努めている。また、家族の来所時にサービスについて説明し意見や要望を聞き反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の声を聞き、職員間で話し合い、その時のケアを見極めている。必要に応じてケアマネ等が本人や家族に提案や説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力やできることできないことを見極め笑顔が見えるような支援に努めている。また、入居者同士のやり取りを大切に、良好な関係が築けるよう支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時はできるだけ家族に行っていただけのお願ひし、本人の状況を把握して頂いている。本人の近況で変化がある時は電話で報告したり、来所時に説明報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容店に行けるよう支援しているがごく一部の利用者に限られている。十分に全員には支援できていない。	顔なじみの理容店を利用したり、町内の公園や自宅周辺にドライブに出掛けたり、家族の協力で外食などに出掛けたりしている利用者はいるが少ない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者それぞれの個性や生活習慣、好きな事、嫌いな事を知り、入居者同士良い関係が保たれるよう声掛けし、余暇の時間の過ごし方を工夫している。ユニット間の交流も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の意向をくみ取り、スムーズに次の生活へ移行できるよう情報と支援をおこなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや体調等に合わせて生活して頂けるよう職員間で話し合い、意向の把握に努めている。また、認知症状が進行し困難な入居者に対しては本人本位に検討している。	日頃の生活の中で、担当者が利用者に声掛けを行い、希望や意向を把握し、ケース会議で話し合いをしている。また、意思表示の困難な方については、家族などから情報を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、生活歴や生活環境等把握に努めたり、サービス提供事業所に問い合わせたりして把握し、それを踏まえつつホームでの生活を支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムを把握し、好きな事、できることの継続ができるようミーティングやカンファレンスを活用し、スタッフ間の情報の共有を図っている。必要に応じ、リハビリスタッフ等の協力を得ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活で疑問に思うことはミーティングなどで話し合い、意見や情報交換等を行いケアプランに反映させている。家族来所時に意見を伺い計画に反映させている。	利用者・家族の意見や要望など十分に把握し、介護計画が策定されている。また、日々モニタリングを実施し評価を行って、現状にあった介護計画が作成されている。さらに、介護計画に沿った支援とその経過記録も適切にされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	問題点や気づきがあった場合は記録に残し、スタッフ間で話し合いを行い情報共有に努めている。また、ケース会議で介護計画について話し合い見直しを行い実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する老健の看護師、医師、リハビリスタッフなどにも協力を仰ぎながら、意見を参考に問題の解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の代表者に参加して頂いている。また、ボランティアの協力を得て交流が持てるよう支援しているが地域資源という点では充分支援できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い受診をしている。受診の内容等については家族来所時報告している。また、必要に応じては家族に受診をお願いしている。	希望するかかりつけ医を受診できるが、大半の利用者は法人の医師をかかりつけ医としている。通院付き添いは状況に応じて、家族や職員が協力して行い、受診結果は送迎時や電話で報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況等の把握に努め、変化が見られた場合には看護師に相談し助言やアドバイスをもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は関係者と密に情報交換を行い本人や家族の不安を軽減するよう努めている。地域連携室を経由し情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を確認しながら、かかりつけ医や看護師と連携し家族、本人、職員で話し合いを持ちながら対応している。また見取りについては家族、本人、医師、職員で話し合いを持ち対応している。	重度化や終末期の方針を利用開始時に説明し、本人や家族の同意を得ている。状況変化時には、医師や家族、職員が話し合い、方針を共有しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時は管理者の指示を仰ぐことはできているが全ての職員が応急手当や初期対応が身に付いているとは言えないが経験をすることによって少しずつ身につけてきている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが災害を想定した訓練は行っていない。また、地域とのつながりが十分に持っていないため協力体制はできていない。ただ口頭では区長、民生委員に協力を呼び掛けている。	今年度、日中火災を想定した訓練を実施し、現在は地震を想定した訓練を計画しているが、夜間を想定した訓練や消防署立ち会いでの訓練、さらに、防災機器の操作訓練などを実施すると共に、地域との協力体制も築いて欲しい。	夜間を想定した訓練や消防署の立ち会いでの訓練、さらに、防災機器の操作訓練などを実施すると共に、地域との協力体制も築いて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に合った、優しくわかりやすい言葉がけやゆっくりした対応をこころがけている。また、目線を合わせて近くで言葉をかけるよう対応している。	利用者の人格を尊重し、利用者の目線に合わせた支援をするよう、全職員に周知している。また、会議の中で具体的な言葉かけや、対応の仕方について検討したり、支援の中で問題を感じた時には、職員相互で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いをくみ取ったり、行動や様子を観察することで、思いに添えるように支援している。また、自己決定ができるように働き掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて生活ができるよう支援している。希望があればできるだけ添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好みの服を選んでいただいたり、選べない時はスタッフがその人に合ったものを選んだりしている。また、汚れた場合は着替えを促し、清潔の保持に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者に食べたいものを聞いたりして献立に取り入れるよう心掛けている。また、食事の準備や片付けを無理のない程度に行ってもらっている時々買い物にも一緒に出掛けている。庭でできた野菜と一緒に収穫し食事提供している。	利用者と共に食材の購入に出掛けたり、下準備や調理、下膳など能力に応じた作業を職員と一緒にいき、楽しい食事になるよう支援している。また、自家菜園で育て収穫した、季節の野菜を献立に採り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量が分かるよう別紙に記入し把握している。好みや食事形態を把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて口腔ケアを行っていたいっている。また毎食は行えていない入居者もおられるができるだけ支援している。また、入れ歯洗浄液にて消毒し、口臭の予防をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握しその人に合わせてトイレに誘導しただけパットの使用を減らせるよう支援している。オムツ使用はしていない。	排泄チェック表や、利用者の表情や身振りなどから、排泄タイミングを掴みさりげない声かけで排泄支援をしている。また、失禁時も羞恥心に配慮しながら、不安を感じさせない言葉かけに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らないよう水分や乳製品、野菜など多く取れるよう心掛けている。下剤の服用は内服の仕方や時間を考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の有無は本人に希望を聞き、健康状態を確認し入浴されている。タイミングや声掛けに工夫をし、その人のペースで安心してゆっくり入浴できるように支援している。時間や曜日を決めてしまっている。	一人ひとりの希望やタイミングに配慮した入浴支援をしている。また、入浴を拒否される場合は、声かけや対応職員を変えたり、タイミングを工夫した支援をしている。ゆずや菖蒲、入浴剤なども使用して、入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の習慣に合わせて、好きな場所で休んで頂くよう支援している。ソファやこたつを設置し、休める空間を作るよう配慮している。また、居室は本人の希望に添えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに個人の処方薬の説明書を綴じ、いつでも確認できるようにしている。しかし、薬についての理解は、まだ不十分なところがある為、薬に関する知識の習得に努めているところである。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いなどはお願ひし、職員と一緒にやっている。余暇時間には縫い物や、歌を聴いたり、歌ったりなど趣味や嗜好にそった支援を行い、これまで続けてきたことが途切れないように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩はできるだけ機会を設けている。また家族へ協力を仰ぎ自宅や外食等も支援している。春と秋には花見と紅葉狩りに城跡や山本不動尊に出かけている。	散歩、買い物、ドライブや名所地への花見、紅葉狩りなどに出かけたり、家族の協力を得たドライブ、外泊、外食などの外出が出来るよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は管理してもらっている。お金を使いたいと言う時はなるべく本人も一緒に出掛け購入して頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けられるようにまた、かかってきた電話は本人に取り次ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は利用者が親しみやすいよう、ソファやこたつを置き、寛げるようにしている。台所はオープンになっているため一緒に作業ができ会話をしながら料理ができる。また、緑の鉢物を置くことによって目の保養にもなっている。また、温度や湿度も調節している。	明るく、ゆったりした空間は落ち着きある装飾で観葉植物、季節の手工作品や行事写真が掲示され、ソファやこたつで寛ぐことが出来る。また、清掃や整理整頓が行き届いており、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつやソファがあり利用者同士でくつろげるスペースや一人で過ごすことができるスペースがある。外に椅子を置き、外の草木や花が楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの物を持ってきていただけるよう働きかけできるだけ今までの生活に近い環境で暮らしていただけるよう配慮している。	居室にはプライバシーに配慮された工夫がなされており、思い思いにベッドや寝具、テレビやタンスなどを持ち込み、その人らしく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆同じ戸なのでそれぞれの入り口に張り紙をして居室が分かるようにしている。また、居室の電気をつけたり、消したりできるよう紐の長さを調節している。		